

Reevaluation of cardiovascular risk factors for thrombotic events in 580 Japanese patients with essential thrombocythemia

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2024-06-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 古屋, 智帆 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003607

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2800 号

Reevaluation of cardiovascular risk factors for thrombotic events in 580 Japanese patients with essential thrombocythemia

日本人の本態性血小板血症患者 580 人における血栓イベントに及ぼす心血管リスク因子の影響について

古屋 智帆 (ふるや ちほ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

本態性血小板血症 (ET) 患者の血栓症を予防するためリスクに応じた治療を行うことが重要である。高齢、血栓症の既往、および *JAK2N617F* 遺伝子変異の存在は、ET における血栓症のリスク因子としてよく知られているが、心血管リスク (CVR) 因子が ET の血栓症に及ぼす影響については不明な点が多い。そこで、WHO2017 の診断基準を満たした ET 患者 580 人を対象に、CVR 因子が血栓症に及ぼす影響を解析した。単変量解析により、高トリグリセリド血症および複数の CVR 因子の保有が血栓症の強力なリスク因子として同定され (それぞれハザード比 [HR] 3.530、95%信頼区間 [CI] 1.630-7.643、 $P=0.001$ および HR 3.368、95%CI 1.284-8.833、 $P=0.014$)、高 LDL コレステロール血症が潜在的なリスク因子として同定された (HR 2.191、95%CI 0.966-4.971、 $P=0.061$)。多変量解析では、高トリグリセリド血症が血栓症の独立した危険因子であることが明らかになった (HR 3.364、95%CI 1.541-7.346、 $P=0.002$)。さらに、血清トリグリセリド値 $\geq 1.2\text{mmol/L}$ (HR=2.592、 $P=0.026$ vs $<1.2\text{mmol/L}$)、または 2 つ以上の CVR 因子 ($P=0.011$ vs CVR 因子なし、 $P=0.005$ vs CVR 因子 1 つ) を有する患者では、無血栓生存率の低下が観察された。これらの結果から、ET における CVR 因子の血栓症への影響が明らかになった。CVR 因子は管理可能であるため、血清トリグリセリド値のコントロールなどの生活習慣の改善によって ET 患者の血栓症を予防できる可能性がある。